

人物紹介コーナー①

磯子地域で活躍するこの人

—市内の古文書会の連携を提唱—

今回の歴史仲間の紹介コーナーは、磯子区在住の鈴木美奈子さんをお願いして、「火曜古文書会」を紹介していただいた。もともとお願いしていた「古文書一九会」はコロナ禍で会員が激減し、運営方法を変えざるを得ないことになったため、こちらとしても断念することになった。



聞くところによると、現在 55 歳の鈴木さんは 30 代のころから古文書に親しんできたとか。一般的には退職者が趣味で歴史を学ぶにあたって、古文書の知識があったほうが良いので勉強を始めるというパターンから、古文書の勉強会には高齢者が多く、平均年齢は 70 代後半のようである。一方、古文書を若い時から始める人は殆ど大学では歴史専攻で、その後は学芸員になるような人ばかり、地域の講座やサークルで古文書を学んでいるなかで若い人の姿を見かけるのはごく少ない。そこで、鈴木さんにどのように古文書に興味を持ったのかなど話を伺った。

鈴木美奈子さん近影。後ろは海老名駅前の「相模国分寺」七重塔モニュメント

古文書との出会い

「もともと歴史が好きでしたが、古文書に興味をもったのは、20 年以上前、九十九里をドライブ中に『いわし博物館』で漁民が書いた文書を見たのがきっかけでした。たかだか 200 年前に、しかも一般人が書いた文字が読めないということに愕然としました。その後わりとすぐに、磯子区役所主催の生涯学習講座で古文書をやるというので、勇んで申し込みました。」

自分の住んでいる区にも江戸時代の文書が残っていることを知り、驚いたという。字が一つ読めるだけで達成感のある古文書解読に夢中になっていった。講座終了後、有志で自主グループ「磯子古文書の会」(設立平成15(2003)年、現在は休会)を立ち上げるということになり、設立メンバーに加わり、役員やらいろいろ携わったという。これがまだ 30 代の頃で、まわりは退職者のような人ばかりだった。さらに、堤家文書を読んでいる「古文書一九会」は平成19(2007)年発足だが、その設立メンバーの一人でもある。

ちなみに、いわし博物館は平成 16(2004)年 7 月 30 日に、地中の天然ガスが爆発し閉館となってしまう、展示されていた文書を自分で読むというリベンジは叶わなくなってしまう。

地域でマルチに活躍

主婦業のかたわら、PTA 役員や区の生涯学習講座運営委員などに加わり、その後 NPO 法人 夢・コミュニティ・ネットワーク(夢コミネット) <http://www.yumecomi.net/>(設立 2004 年 11 月 23

日)に関与し副代表となった。当時この NPO は、女性の居場所づくり・団塊世代の地域デビューがメインだったが、現在は子育て支援事業が中心となっている。現役職はネット広報担当。

平成 18(2006)年度、磯子区役所主催の区内 4ヶ所の地区センターでの地域デビュー講座をその NPO が請け負い、その内一つのテーマを特に自分が関心のある古文書にして、講座のコーディネーターを務めた。講座終了後、有志で自主グループを立ち上げたのが古文書一九会、平成 19 年に結成したので、一九会となった。

その他書ききれないほど、地域での活躍は広範囲にわたっている。現在は 4 件バイトをかかえているようだ。バイトといっても、なかには地域の文化に深くかかわっている「横浜市磯子区民文化センター杉田劇場」が出版する冊子・DVD 等の執筆・編集などもある。

古文書の会の連携を求めて

鈴木さんが提唱しているのは、横浜市には「横浜郷土史団体連絡協議会」(このページ左欄に所属団体を掲載)があるので、その中に古文書部会か連絡会のようなものをつくり、情報交換ができるようにすることだ。

それは、古文書を読んでいると、村が違っても同じ領主(旗本)下にあったり、領主が違っても隣村から御触書が回って来たり、と他村とのつながりが多く出てくる。他地域の古文書の会と情報共有できれば、さらに市歴史博物館や開港資料館の先生方にも協力してもらえれば、江戸時代の横浜が立体的に見えてくるのではないかという思いが膨らみ、実現できたらと願っているようだ。

以下、鈴木さんより、「古文書一九会」発行の冊子の宣伝です。

古文書一九会では、解説した堤家文書を史料集にまとめて発行しています。ご希望の方は、min002@suzuki.email.ne.jp までご連絡ください。

★古文書一九会 史料集その三 堤家文書で読み解く 江戸期磯子村 甚平の時代(元文～延享)
1冊 200円(送料別)

読みどころは「海」の章、隣村滝頭村との地引網漁に関する出入(訴訟)です。どちらの言い分が通ったでしょうか。

★古文書一九会 史料集その四 堤家文書で読み解く 江戸期磯子村 甚平の時代(寛延～宝暦)
1冊 300円(送料別)

読みどころは「助郷」の章、保土ヶ谷宿の困窮に伴う助郷 39ヶ村との交渉です。堤家現ご当主のインタビュー記事も掲載しています。